



プロ野球生活23年、ずっと野球の楽しさを追いかけている。

川崎宗則選手 プロ野球選手 栃木ゴールデンブレーブス所属



自分で考えることで、野球の楽しさを感じた。

川崎宗則選手は、小学3年生で野球を始め、現在も栃木ゴールデンブレーブスで選手を続けていますが、一度だけ野球をやめた時がありました。それは、中学校に上がった時。小学生時代のチームは全国大会に出場するほどの強豪でしたが、勝利を目標として毎日練習をしているうちに、野球に楽しさを感じられなくなったのが理由です。その後、先生や友達からの誘いもあって野球部に入部。そこには、どうしたら上手になるのか、強くなるのかを、自分たちで考えて練習をする環境がありました。積極的に野球に向き合っている



と心から野球が好きになり、「プロ野球選手になりたい」と本気で思うようになりました。そして高校を卒業すると同時に、福岡ダイエーホークス(現ソフトバンクホークス)に入団することができたのです。

チームスポーツなので、みんなでも喜びあいたい。

内野手である川崎選手は、ピンチに陥ったピッチャーにいち早く歩み寄ることをしています。「がんばれとか、励ますような言葉はかけないです。ピッチャーは100%の力を出しているんです。それよりも僕が行くことで気分が変わればと考えています。少し間を置くことで、ピッチャーの気持ちが悪くなるから」。野球は打順を待っている時や守備の時など、動いていない時間が多いスポーツでもあります。そんな時でも頭はしっかりと動かし、チームやチームメイトがどんな状態なのか、何をしたらチームに貢献できるのかを考えている

「勝利することが目標ではない。」

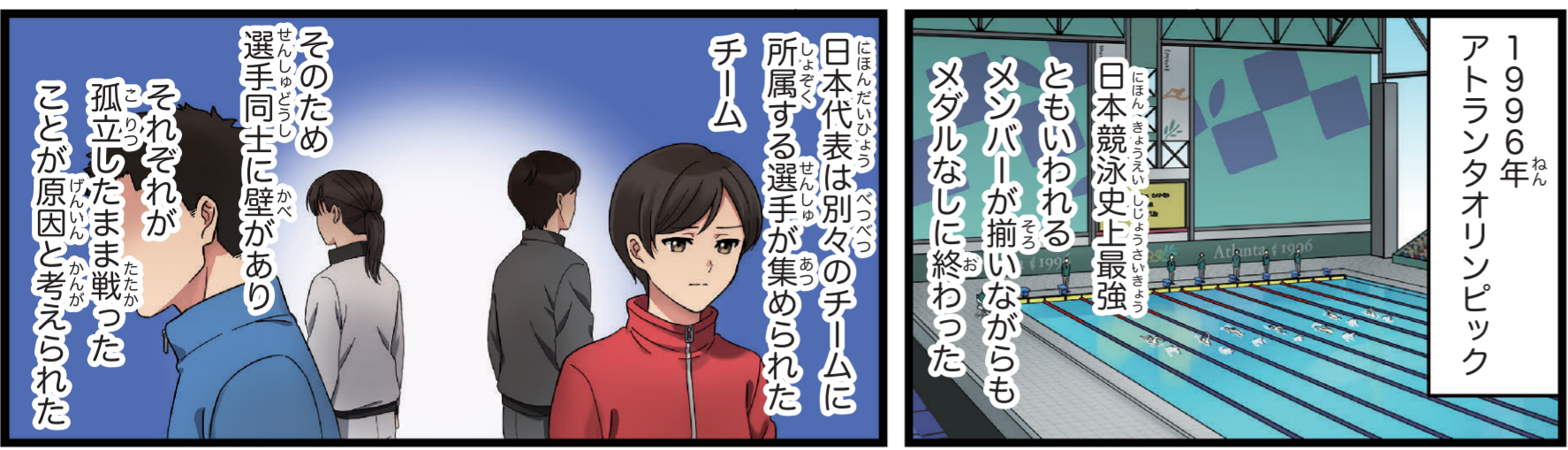
川崎選手は野球教室などで小学生と接する機会が多くありますが、その時に大切にしていることは、思いっきりバットを振って仲間と励まし合って、みんな野球を楽しむこと。「勝つことはもちろん嬉しいことですが、素晴らしいことですが、僕は勝つことを目標にはしません」と川崎選手は言います。「試合で相手がミスした時に心ないヤジを飛ばすのを見ると、とても残念な気持ちになります。相手の気持ちも考えずに勝つことだけを目標にしているから、そういった行動になると思います。もっと野球すること自体を楽しんでほしい。それが将来にもつながると考えています」。プロ野球選手になってから今年で23年、川崎選手は野球が楽しいからこそ、今も現役選手を続けているのです。



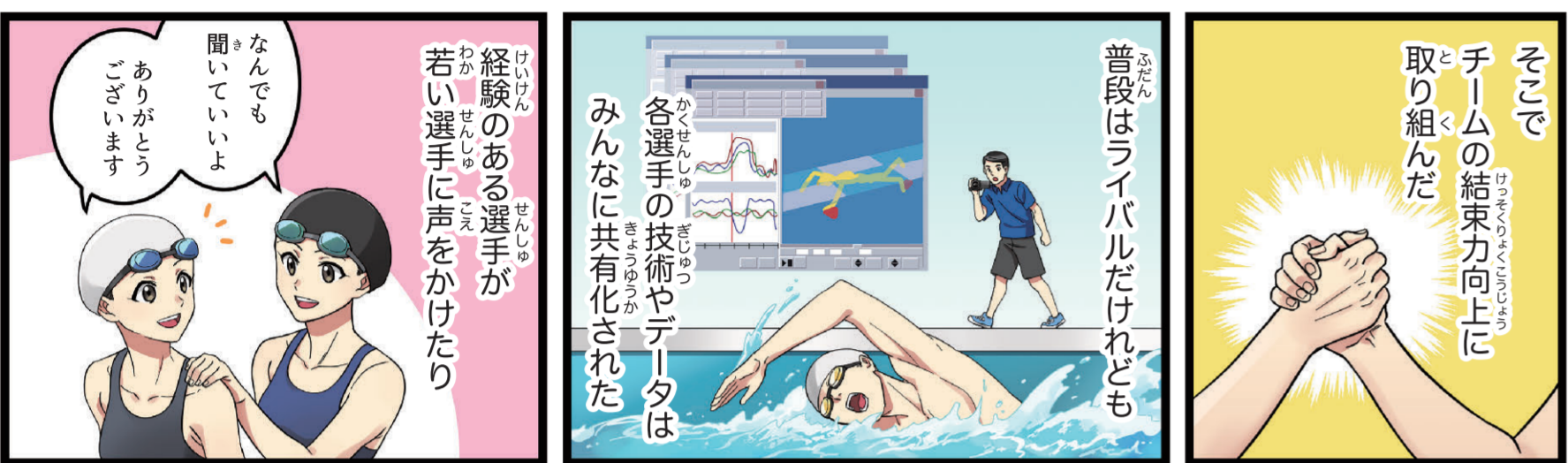
フェアプレイ宣言しました!!

一人じゃない、が生み出す力

競泳日本代表(トビウオジャパン)



1996年 アトランタオリンピック
日本競泳史上最強ともいわれるメダルなしに終わった



そこで、チームの結束力向上に取り組んだ。各選手の技術やデータはみんなに共有化された。普段はライバルだけれども、経験のある選手が若い選手に声をかけたり、聞いていよ、ありがとうございます。



選手ミーティングを開き、チームジャパンとして何ができるだろうか? お互いにアドバイスしたり、ひとつひとつを積み重ね、個人競技だけれどもともに戦う意識を育てていった。2000年シドニー大会以降、トビウオジャパンはメダルを獲得できるようになった。



そして、2012年 ロンドンオリンピック この大会で史上最多11個ものメダルを獲得。



私は一人じゃないチームのみんなと戦っているんだ! この大会で史上最多11個ものメダルを獲得。個人競技であっても他の選手のことを思いやり支え合っただけでいい結果を生み出した。